

フレクセラ・ソフトウェア『Secunia Research』が最新レポートを発表 Windows OS と非マイクロソフト・アプリケーション、脆弱性リスクの明と暗

1年間にわたる減少のあと安定してきた Microsoft® Windows OS の脆弱性とは対照的に
依然として増加傾向にある非マイクロソフト・アプリケーションの脆弱性

フレクセラ・ソフトウェア合同会社(本社:イリノイ州アイタスカ、CEO:ジム・ライアン、以下 フレクセラ)の Secunia Research は、12 カ国を対象にした 2016 年第 3 四半期の最新[国別レポート](#)を発表しました。日本における個人 PC での Microsoft Windows オペレーティング・システムのパッチ未適用率は、1 年間にわたり着実に減少したあと、安定してきました。しかし一方で、個人 PC における Windows 以外のアプリケーションのパッチ未適用率は増加し続けています。

本レポートでは、12 カ国の個人 PC における脆弱性のあるソフトウェア製品の状況を解説しています。また、PC をハッカーのリスクにさらす危険度によって、脆弱性のあるアプリケーションをランク付けしています。

日本の国別レポートの主な調査結果:

- 2016 年第 3 四半期に、Windows オペレーティング・システムにパッチを適用していないユーザーは 5.0 %。2016 年第 2 四半期の 3.8 %から増加した一方、2015 年第 3 四半期の 7.5 %からは減少した。
- 2016 年第 3 四半期に、Microsoft 以外のプログラムにパッチを適用していないユーザーは 14.3 %。2016 年第 2 四半期の 13.6 %からも、2015 年第 3 四半期の 11.3 %からも増加した。
- 2016 年第 3 四半期の危険度トップ 3 は、Oracle Java JRE 1.8.x/8.x(パッチ未適用率 49 %、市場シェア 42 %、脆弱性 57 件)、Apple iTunes 12.x(パッチ未適用率 46 %、市場シェア 40 %、脆弱性 50 件)、Lhaplus 1.x(パッチ未適用率 64 %、市場シェア 27 %、脆弱性 0 件)の 3 プログラム。

Windows オペレーティング・システムのパッチ未適用率の安定化

個人 PC の Windows オペレーティング・システムのパッチ未適用率は、四半期間で上下する可能性があるものの、昨年の同時期に比べ、低いレベルで安定を見せています。この傾向が続くかどうか把握するには時間が必要ですが、Windows 7 SP1、Windows 8.1、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、および Windows Server 2012 R2 のアップデートのロールアップ・モデルへの移行に関する、Microsoft の最近の[発表](#)が手掛かりとなります。Microsoft によれば、Windows がサポートするバージョンはすべて、サービス・モデルの類似のアップデートに続いてリリースされ、より安定して簡素化したサービス・エクスペリエンスを提供できるとしています。

フレクセラの Secunia Research 担当ディレクターの Kasper Lindgaard は次のように述べています。「これを逐一追跡していくことで、パッチ未適用の Windows オペレーティング・システムの最近の減少が一時的なものなのか、それとも長期的な傾向であるのかを判断できます。もし長期的な傾向であれば、ハッカーが Windows OS 内で悪用できる攻撃対象領域が縮小されるため、消費者に多大

な恩恵をもたらします」

非マイクロソフト・アプリケーションの攻撃対象領域は継続的に増加

セキュリティ・ニュースは、PC の個人ユーザーにとって必ずしも楽観的なものではありませんでした。非マイクロソフト・プログラムのパッチ未適用率は、増加傾向が続いています。その原因は、消費者がセキュリティ・パッチを適用する際のプロセスにあると考えられます。マイクロソフトは、そのパッチ・プロセスと自動化をアプリケーション・ポートフォリオ全体にわたって標準化しています。これに対し、マイクロソフト以外の各ベンダーが提供する独自のパッチ・プロセスは、ユーザーにパッチに対する知識と勤勉さを求めるものなのです。2016 年の脆弱性レビューによると、Microsoft 以外のプログラムは、コンピュータにインストールされているアプリケーションの 60 %を占めています。

Lindgaard は次のように述べています。

「ほとんどのユーザーは、PC 上のすべてのアプリケーションのセキュリティ・パッチを最新版に保つために、時間を割いたり、注意を払ったりすることはありません。それに加えて、Windows 以外のアプリケーションでは、いっそうの手間がかかります。企業向けの [Corporate Software Inspector](#) や消費者向けの [Personal Software Inspector](#) のようなパッチ自動管理システムが非常に重要であるのは、こうした背景があるからです」

12 カ国の国別レポートは、2016 年 7 月 1 日～2016 年 9 月 30 日に Personal Software Inspector で実行されたスキャンのデータに基づいています。

###

国内のソフトウェア脆弱性に関する情報はこちら

<http://www.flexerasoftware.jp/enterprise/resources/research/country-reports/tab/japan>

フレクセラ・ソフトウェア合同会社について

フレクセラ・ソフトウェアは、アプリケーション製作者や企業がアプリケーションの利用率とセキュリティを高め、ソフトウェアを通して多角的な価値を得ることができるようサポートします。フレクセラのソフトウェア・ライセンシング、コンプライアンス、サイバーセキュリティ、およびインストールの各ソリューションは、変化し続けるテクノロジーのリスクとコストに対して、継続的なライセンス・コンプライアンス、ソフトウェア投資の最適化、そして将来に対応できる企業・団体を支援するソリューションです。25 年以上にわたり市場を牽引しているフレクセラは、中立的で信頼性の高い知見と専門技術の発信源として、また、製品を通して自動化やインテリジェンスを提供する企業として、80,000 社を超えるお客様から高く評価されています。詳細については、www.flexerasoftware.jp をご覧ください。

◆本件に関するお問い合わせ先◆

株式会社 井之上パブリックリレーションズ

フレクセラ・ソフトウェア合同会社 広報担当: リットウイン/関口

TEL: 03-5269-2301 Mail: prflexera@inoue-pr.com